

2018/1/29

横浜市立市ヶ尾中学校 学校だより Vol.94

市ヶ尾中Times

1月号

<学校教育理念>

自立貢献

発行者：校長 坂村 暁

市ヶ尾中 Tel 045-973-3400

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/ichigao>

新たなスタートへ向けて

校長 坂村 暁

記録的な低温が続き、インフルエンザが猛威をふるい本校でも学級閉鎖となつてしまったクラスもありますが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。おそくなりましたが、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。新たな年のスタートではありますが、学校は一年の締めくくりの時期となります。3年生は進路を決め中学校から新天地へ羽ばたく重要な時期、1・2年生はまとめとともに進級に向けて準備をする時期、私たち教職員にとっては平成29年度を振り返り次なる目標をたてる時期となります。学校で生活する誰にとっても、この2ヵ月が平成30年度への架け橋の期間となります。



さて、法務省が毎年主催する『社会を明るくする運動作文コンテスト』の今年度のコンテストにおいて、3年生の飯島さんが、最優秀賞の「法務大臣賞」に次ぐ優秀賞の一つである「日本更生保護協会理事長賞」を見事受賞しました。すばらしい作文ですので、本人の許可を得て掲載します。



『たかが眉毛、されど眉毛』

思わぬ大事件になってしまった。

僕は眉毛が太く、放っておくと左右の眉がつながってしまう。所属する野球チームの監督からは、眉毛のつながった漫画の主人公になぞらえ、「勘吉」とあだ名をつけられていた。

昨冬のある日、僕は鏡を見たときにふと、「眉毛を整えよう」と思った。大した意味はなく、ほんの少しカットしようという軽い気持ちしかなかった。

父が使うカミソリを手に、左の眉を少し、それに合わせて右も少しそった。ちょっと右をそりすぎたのでそれに合わせて左を少し、いや今度は右を、とやっているうちに、眉毛はどんどん薄くなってしまった。

鏡に写る顔は、もはや自分の顔とは思えなくなっていた。

ちょうどパーカーを着ていたので、フードをかぶって両親の前を通り過ぎた。「どうしたんだ」と声をかけられたが「今日寒いね」と答えてごまかした。冬でよかったと思った。

しかし、学校ではフードをかぶれない。友達が「どうしたの」と心配そうに声をかけてくれた。理由を話すと、みんな大笑いした。でも、理由を聞かずにバカにする友達は一人もいなかった。

野球チームでは、もっと大変だった。僕はその時知らなかったが、昔は多くの非行少年が眉毛

を細くしていたという。細い眉毛は非行の始まり、とされていたらしい。

練習の合間に監督に呼ばれた。「ちょっと格好をつけたい気持ちは分かる。だが、眉をそったら本当に格好がいいか、眉をそったら野球がうまくなるのか、自分にとって何が大切なのかよく考えなさい」と言われた。



コーチからも呼ばれた。あるコーチの息子も中学時代に眉毛をそってキャプテンをおろされたという話を聞いた。

チームメイトの保護者からも、たくさん声をかけてもらった。「自然な眉毛のほうが格好いいぞ」「お父さんやお母さんに言えないことでも相談してこいよ」「監督は嵩貴を心配しているぞ」と会う人会う人が声をかけてくれた。この頃、野球チームでは僕の眉毛の話題で持ちきりだった。

正直、とても驚いた。本当に気軽に眉毛をそっただけなのだ。不器用なために予想以上に細く、薄くなってしまっただけなのだ。決して非行への第一歩などではなかった。

ただ、驚きと同時に心が温まる気がした。皆が僕を心配してくれている。その思いが痛いほど伝わってきた。眉毛だけで、これほど心配してもらえる自分を幸せだと感じた。

僕は小学校時代から野球チームに入っていた。そのため、友達のお父さんはコーチでもあった。友達のお父さんに叱られ、それ以上にほめてもらう機会があった。エラーをして落ち込んでいた時も、ヒットが打てなくて悩んでいた時も、口うるさい父に叱られて泣いていた時も、いつでも「大丈夫だよ」「嵩貴ならやれるよ」「いつでも相談にのるよ」と言ってくれる仲間や、大人がいてくれた。

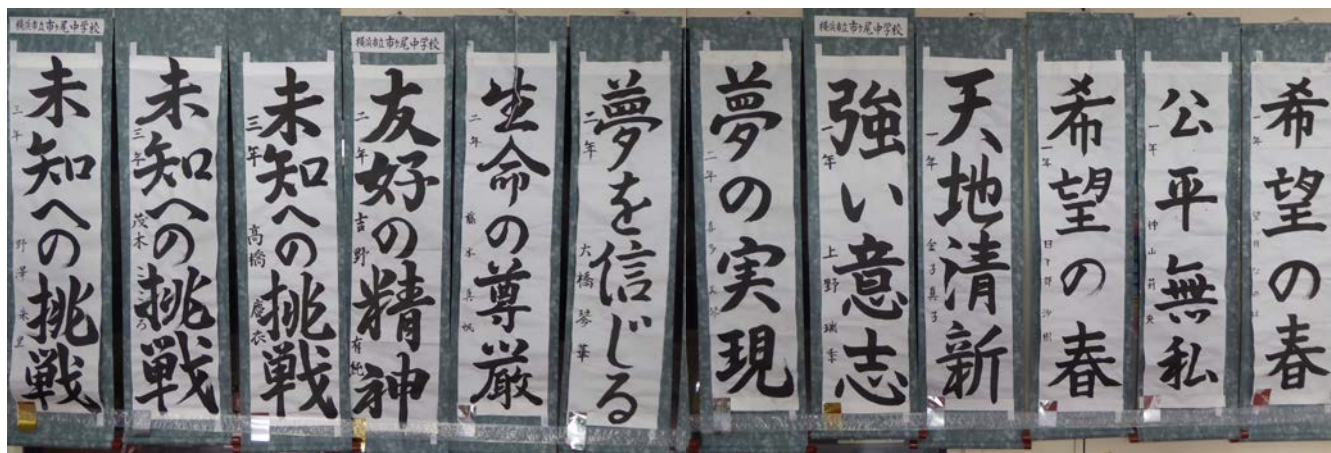
近年は周囲の人々、近隣住民との付き合いがなくなってきた。確かにプライバシーの問題などもあるだろう。

だが、無関心ではさびしい。ちょっとした一言がどれほど心強いものか。悩む中学生、高校生の非行を防ぎ、社会を明るくする方法とは、周囲への関心、ちょっとした一言なのではないか。僕はそれを眉毛で学んだ。

ちなみに、監督は今ままで「勘吉」と呼んでいたが、眉毛が薄くなった僕を「マロ」と呼ぶようになった。

校内書初め展

冬休み明けの各教室には、生徒の皆さんがお正月に気持ちを込めて書いた「書初め」が貼り出されます。その中から選ばれた優秀作品が昇降口前の廊下に展示されました。どの作品も力作そろいです。



人権特設授業『事後学習』



昨年末の『人権特設授業』では、寿町や周辺で暮らす人々の生活や思いを通し、福祉や社会の課題、差別や偏見の問題について学ぶことができました。1月19日、『人権特設授業』で学んだことをもとに1・2年生が事後学習を行いました。

はじめに日本や世界にはどのような差別や偏見の問題があるのか考えました。外国人差別・障がい者差別・ジェンダーにもとづく偏見などさまざまな問題がありました。その後、横浜市内他校の中学生が、履けなくなった上履きを寄付し

ている団体を通して訪問したベトナムでの経験と、訪問前に抱いていたイメージがいかに偏見にもとづくものであったか。また、偏見をなくするにはどうすればよいのか？について綴った『尊重し合うこと』という作文を読みました。ベトナムは毎年3年生が卒業期に上履きを寄付していて、本校ともつながりがある国です。続いて、人権特設授業の内容と読んだ作文をもとに『差別・偏見をなくすために私たちができること』についてグループで意見を出し合いました。最後にグループごとにキャッチフレーズを考え、それぞれの代表が発表しました。これからも多様な人々が偏見なくお互いを認め合いSDGsが目指す世界になるようみんなで取り組んでいってください。



横浜市ESD児童・生徒交流報告会

1月20日の土曜日に「みなとみらい」にある『JICA 横浜国際センター』で開催された『横浜市ESD児童・生徒交流報告会』に生徒会本部役員7名が参加しました。



今年で2回目となりますが、今年は小学4年生から高校生まで幅広い年齢の児童・生徒が多数参加しました。前半は各校が展示した取り組み内容を背に「ポスターセッション」を行いました。後半は「えんたくん」に、各校の取り組みのキーワードを書いていき、その取り組みをSDGsの17の目標とつなげていきました。環境保全や海の生物保護、国際理解や地域課題の解決など様々な取り組みがありましたが、17の目標を通して考えると取り組みにつながりがあることがわかりました。

その後、各グループで『2030年の私たちの未来』について考えました。本校生徒会本部役員を含め中高生が立派にファシリテーターを務めていました。各校でSDGsが広まっていくことを期待しています。

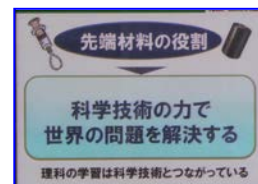


3年生『東レ』による出前授業



今年も3年生の理科の授業で「東レ(株)」の講師の方に来校していただき出前授業を行いました。テーマは『先端技術と地球環境問題とのかかわり』です。東レの開発した「中空糸膜」を使っただけの実験では青い水が無色になりました。実験のあと、さらに細かい「逆浸透膜」を使うことにより海水の淡水化が可能であり実際に世界各地で使われている話を聞きました。また、温暖化防止のために「炭素繊維」を多用した軽量化された航空機が開発される

話を実際に「炭素繊維」を手に取りながら聞きました。先端技術(科学)が日々の生活を豊かにしているだけではなく、地球環境問題の解決のためにも貢献していることを知ることができた授業となりました。



学校司書のコーナー

「卑弥呼のサラダ 水戸黄門のラーメン」

加来耕三著 ポプラ社

学校司書 渡部友紀



題名に惹かれて読んでみた本ですが、内容は想像以上に面白いです。この本は、歴史上の有名人たちの「食」を紹介しながら、史実にせまっていくという、今までにない試みをしています。

私がとても興味深く読んだのは、去年の大河ドラマの「おんな城主 直虎」に登場した井伊直政の子孫にあたる井伊直弼の桜田門外の変の遠因にあたるささやかれているエピソードです。江戸時代、日本では獣肉を表立って食べることは出来ず、薬用と称して食されていました。井伊家が治める彦根藩は、幕府に牛肉を扱うことを認められた唯一の藩であり、養生肉として牛肉の味噌漬を毎年、将軍家をはじめとした親藩諸侯へ贈っていました。水戸藩九代藩主の徳川斉昭は、彦根藩の牛肉の大ファンだったそうですが、彦根藩の藩主が殺生を嫌う井伊直弼になったとたん牛肉が届かなくなりました。桜田門外の変で、大老井伊直弼を襲ったメンバーのほとんどが水戸の浪士だったというのは、因縁深い話です。安政の大獄という厳しい弾圧をしながらも、殺生を嫌った井伊直弼や、牛肉が届いた喜びをお礼の手紙に綴ったという徳川斉昭の人となりは、遠い歴史の人物を身近な存在に感じさせてくれます。「食」という普遍的な営みが、時代を超える力を与えてくれるのでしょう。

著者の膨大な資料に基づいて語られる説は、説得力があります。例えば、坂本龍馬の紹介は、物語で語られる学業不振から急に天才になったかのような坂本竜馬像よりリアリティがあって、私は好きです。

古代から近代まで、たくさんの歴史上の人物について書かれているので、気になる人物を選んで読んでみても楽しめると思います。

スクールカウンセラーより

あなたの子どもが、「生きるのがつらい…」と言ってきたら

SC：谷地森久美子

子どもは、成長の途上のため、内側からあふれ出る衝動を十分にコントロールできず、自分で生身のからだを傷つけてしまうことがあるものです。全国的に「子どもから、死んでしまいたいと言われた」「自傷行為をしている」「突然そんなことを言われて、どうしたらよいか」など、親御さんからの相談が最近、少しずつ増えてきています。大事な我が子から、そういう訴えがあったら、親としては最悪のことを想像し、どうしてよいかわからなくなるもの。ですが、そんな時は、親であるあなたに、お子さんがわざわざ打ち明けてきた、ということに、ぜひ注目してください。「死にたい」という表現の中には、「死にたいくらいのつらさがあるけれど、そのつらさが和らぐのではあれば、本当は生きたい。だからそういう自分を受け止めて。この気持ちを、わかって」という思いが含まれています。つまり、死にたいという言葉の奥には実は、「生きたいという気持ち」が通奏低音のように流れているのです。その何%かの「生きたい」にむかって、「私は、大事なあなたに生きてほしい」と、言葉にして伝えていただきたいのです。あふれる熱い思いをこめて――。

2月の予定は、2月1日（木）、7日（水）、14日（水）、20日（火）、28日（水）です。日によって時間帯が異なる場合がありますので、事前に中学校までご確認ください。

(SC 直通 TEL 045-972-0335 来校日のみ対応可能)